

指定管理者による管理運営の実施状況報告

- 1 施設名：福岡県立総合プール
- 2 指定管理者名：アクション福岡マネジメントグループ
- 3 指定期間：平成29年4月1日～令和4年3月31日
- 4 施設設置目的：県民の体育・スポーツの普及振興を図り、併せて健康増進と福祉の向上に資するため。
- 5 管理運営についての点検結果（平成31年4月1日～令和2年3月31日）
 - (1)点検方法：事業報告書、現地確認・ヒアリング等をもとに、指定管理者による管理運営の実施状況の点検を行った。
 - (2)点検結果：別添のとおり

①管理運営状況総括表

別添1(2)

| 大項目 | 事業計画（取り組みや改善の内容等） | 管理運営の概要 |
|---------------|--|--|
| ①公共性（公益性）の確保 | <ul style="list-style-type: none"> ○県の方針に沿った各種施策を展開する。 ○本県体育・スポーツ振興の中核施設としての施設の設置目的を踏まえた管理運営を行う。 ○国、県、関係団体と連携した事業展開を行う。 ○公共性を担保し、利用者の利便性を高める運営を行う。 ○高齢者や障がい者に優しい、安全安心な施設の管理運営を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて計画的に全国・九州・県内全域の各種スポーツ大会やイベント等を実施するとともに、県民のスポーツ活動や学校体育の充実のために施設の提供を積極的に行うことにより、スポーツ普及振興を行った。 ・年間を通じたプールの施設提供だけでなく、冬季にはスケートリンクを設置し、県民が多くスポーツに触れる機会を提供し、冬季スポーツの競技力向上にも取り組んだ。 ・高齢者のために更衣室や通路に椅子を設置したり、足が不自由な方のためにアクアシューズの使用を許可するなど、高齢者や障がい者に優しい誠実な施設の管理運営を行った。 |
| ②施設利用及びサービス向上 | <ul style="list-style-type: none"> ○サービスの充実・改善を図り、利用者の参加機会を拡充する。 ○新規利用者の獲得に向けた戦略的、具体的な広報計画を策定し、広報・PR活動を行う。 ○隣接施設と駐車場利用の連携を図り、大規模大会等に備える。 ○利用者の立場に応じ、常に工夫、改善を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度利用者数141,569人 (対前年度比97.8%、30年度利用者数144,820人) ・隣接施設と連携してアクションフェアを開催し、オリンピックによる水泳教室やプールの無料開放を実施し、施設の利用促進を図った。 ・県体育協会、競技団体、学校、行政機関等と連携し、西日本年齢別選手権水泳大会、日本マスターズ水泳選手権大会等の大規模大会を開催し、施設の利用促進を図った。 ・新聞折り込みチラシの発行（約25万枚）や館内でのポスターの掲示等を計画的に行うなど、広報活動を積極的に行い、利用者の拡大に努めた。 ・冬季における温水プール利用者の利便性を向上させるため、更衣室の入口にカーテンを取り付け、新たに暖房器具を設置することで、暖房効果を高め、施設の環境改善を図った。 ・利用者に対するモニタリングやアンケートを実施し、より県民のニーズに応えられるよう、サービスの向上を図った。 ・マナー研修等の職員研修を行い、公共の体育・スポーツ施設の職員として利用者に対して適切な対応ができるよう資質向上を図った。 ・アイススケートオープニングイベントでは、オリンピックによるエキシビションの無料観覧やスケート教室を行い、施設の利用促進を図った。 |

| 大項目 | 事業計画（取り組みや改善の内容等） | 管理運営の概要 |
|------------------|---|---|
| ③経営（収支）改善 | <p>○県民のニーズに応える各種スポーツ教室の開催や九州、全国規模の大会を積極的に受け入れることにより、利用料金収入の増加を図る。</p> <p>○利用者への良質なサービス提供を維持しながら、節電、節水等、光熱水費の削減に努める。</p> <p>○大会等行事に応じて、柔軟な職員配置を計画する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・利用料金収入：実績額22,790千円（対前年度比68.0%、30年度33,492千円） 目標額33,000千円 ・事業収入：実績額15,910千円（対前年度比97.5%、30年度16,318千円） 目標額16,261千円 ・指定管理料：125,752千円（対前年度比102.2%、30年度123,012千円） ・効率的な管理運営により節電を行っている。さらに閉館の影響により大幅に電気使用料は減少した。また、水道使用量はほぼ横ばいとなっている。（電気使用料 対前年度比74%、水道使用料 対前年度比102%） ・事前に大会主催者等と打ち合わせを行い、必要に応じて職員のシフトを組み直す等、柔軟な職員配置を行った。 |
| ④職員確保方策及び健全な財政基盤 | <p>○体育・スポーツの振興と利用者のニーズに応える観点から、必要なスタッフの雇用配置を行う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児・児童水泳教室開催時や利用者が特に多い時期にはスタッフを増員し、プールの監視体制の強化を図った。 |
| ⑤施設管理上の個別事項 | <p>○安全なスポーツ活動等を適切に指導できる体制を整備するとともに、災害や事故発生時に俊敏に対応できる体制を整備する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・AEDを用いた心肺蘇生法等救急法や水難訓練に関する講習を職員に受講させ、安全に対する資質向上を図った。また、年間2回の避難・誘導訓練を実施し、災害や事故等発生時の適切な体制整備に努めた。 ・定期的な施設設備の安全点検や法定点検の確実な実施により、不備箇所の改善等を行うことで適切な安全管理に努めている。 ・損害保険に加入することにより、不測の事態に対応できる体制をとった。 |

②点検結果

| | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> A+（提案内容を上回った） <input type="checkbox"/> A（提案内容をやや上回った） <input checked="" type="checkbox"/> B（概ね提案内容どおり） <input type="checkbox"/> C（提案内容をやや下回った） <input type="checkbox"/> D（提案内容を下回った） | <p>【総合コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスによる閉館の影響もあり利用人数、利用料金ともに減少している。 ・隣接施設（県立スポーツ科学情報センター）の指定管理者である利点を活かし、両施設を有効に活用したイベントを実施する等、施設の利用促進を図っている。 ・利用者の利便性を高める環境の改善に努め、利用者ニーズに対応した施設提供・運営を行っている。 ・利用者に対するモニタリングやアンケート調査を実施し、利用者のニーズに応じた管理運営を目指して、常にサービス向上に努めている。 |
|---|--|